

未来を開く オランダのコロニー

橋 本 明



顎で電動式車椅子を操作する青年

十月下旬、ドイツのベルリンを離れてパリに向う途中オランダの障害者のコロニーを訪れてみることにした。北ドイツのビールフェルドを朝六時に出た汽車は九時すぎに、ドイツ第一の工業都市、デュッセルドルフにすべりこむ。ここで汽車を乗りかえてオランダに向うと、しばらくして車窓の景色は工場地帯から一変して絵葉書そのままの、のんびりとした緑の田園地帯に変り、名物の風車が牧場の中に一つの点景として添えられている。もうオランダに入ったな、と思う間もなく汽車はオランダ第三の都市アルンヘムに着いた。五ドルをオランダのギルダー紙幣に替えて駅前から30分程バスに乗ると、目ざすコロニーはバス停のすぐ横の閑静な林の中にあつた。前もつて手紙で見学の依頼をしておいたので、来意をつげると広報担当の女性がさっそく案内しながらきれいな英語で要領よく説明してくれる。

"Het Dorp"（オランダ語で「村」という意味）とよばれるこの障害者のコロニーは、二〇世紀の医学、科学技術の粋を集めて一九六六年十一月に完成された。

ここに入所できる障害者は、18才以上の肢体不自由者であり、知能、精神状態には異常がないこと、という条件がついている。コロニーといつても、多種多様な障害者を収容するのではなく、ここは成人の肢体不自由者が对象にし、徹底的に機能化された、より専門的なコロニーである。肢体不自由者がここで仕事をし、生活を営むには何不自由のないよう、村全体に設備面でさまざまな工夫がこらされているところにこのコロニーの特徴がある。ここに住んでいる成人の障害者は全員で四百人だが、一人一人の障害者にすべて電動式の車椅子が与えられており、その車椅子が各自の障害の種類、程度に応じて実に精密に作られている。上肢の不自由な人には下肢だけで方向とスピードが調節できるように設計されており、上肢も下肢も麻痺して動かない人は、何と、ビルのくだを口にくわえて顎で操作するだけで、どこへでもすきな速さで行けるのである。こういう重度の障害者が、スイスイと動き回っているのを見て、私は珍しいやら、あつ気にとられるやうで、しばらくポカンと眺めていた。まつたくこういう情景を見たのは初めてだった。

今日本でなら、さしづめ一生をベッドで寝たきりの人一人の障害者には、こんな素晴らしいプレゼントのできるオランダ政府とオランダ国民が本当に私は羨やましかった。驚いたのは車椅子だけではない。何人かの個室をみせてもらうと、ベッドから机、本棚、台所、家具、風呂



肢体不自由者のために特別に設計されたリビングルーム

などすべて部屋中が、障害者に合うように実際に合理的、機能的に設計され、作られている。トイレも、手の不自由な人のために、紙を使わずに蒸気で処理できるようになっている。南側に面した窓は床から天井まで総ガラス張りで、陽が照ると日光が部屋のすみすみまで入ってくる。庭のテラスには広く芝生が敷きつめられており、寝ころがって日光浴もできるし、機能訓練もできる。「これを押してごらん」といわれてボタンを押すと入口のドアがスッポリ開いた。リモート・コントロールだ。

未来の住宅を思わせるような設計に、私はもう何もかもが珍しくて夢中だった。日本でも最近、別府の「太陽の家」という身心障害者の工場で、「テトラエース」とよばれる障害者のための特別な住宅や、この電動式車椅子が試験的に使われているが、早く実用化され、広く普及することが期待される。

この村には他の町と同じようにいろいろな社会施設も揃っているが、障害者のための旅行代理店も設置されたのが印象的だった。ここには一応作業場もあることはあるが、働くことは別に義務でもなければ強要もされない。働きなければ自主的にこの作業場でいろんな仕事を

もできる。しかしそれはあくまで各自の自由意志にまかされている。ちょっとと作業場をのぞいてみると、四、五〇人の人達がいろんな仕事をしている。中でも一番人気のあるのは盲人のための点字本をつくること。「もつと不幸な人たちのために働くことのできるのが一番うれしいわ」と一人の婦人は顔をほころばせていた。

「ヘット・ドルプは、成人の身体障害者が共同生活を営み、仕事をし、余暇を楽しみ、文化的な要求を満たし、そして病院や施設でやけつぱちな気持ちにならずに、民主主義のルールに基いてプライドをもって生活していくことができる世界で最初の村である」と手にしたパンフレットには書いてある。成人の重度障害者対策は世界的にみても未解決の分野だが、この問題に多方面から真剣に取り組んでいるオランダの方法と技術は高く評価されてよい。リハビリテーションの世界的な権威者であるニューヨーク大学のハワード・ラスク博士も「ヘット・ドルプに代表されるようなオランダの身心障害者対策は、アメリカ合衆国もぜひ見習わねばならない」と、ニューヨーク・サンディタームズに書いているが、それ以来アメリカを初め世界各地からこのヘット・ドルプを訪れる人がたえないとい聞く。私も帰り際にノートにサインをするとすでに十数人の日本人の名前が先に走り書きしてあった。

「ヘット・ドルプは障害者の誇りをとりもどし、個性を尊重し、自助を勇気づけ、彼らの未来に自信を与える。それはこの住民にとっても、世界中の障害者にとっても明日を開く鍵である」と先程のパンフレットは結んでいる。

“大胆な実験”と自ら詠っているように、ヘット・ドルプは障害をもつぎりぎりの人間に対する20世紀の医学、科学そして人間の英知の挑戦である。試行錯誤をくり返しながら、ここでは障害者と専門家が汗みどろでさまざまなプロジェクトに取り組んでいる。そして、今、世界の目が、先例のないこの実験に注がれていくのだ。

酸素 欠乏症

諸岡 博 熊

(阪神外貿埠頭公園工務部長)

空気には約二十一%の酸素が含まれていて人体の生理に適している。この濃度が低くなると、体内へ酸素のとり入れが少なくなるある程度までは生理的にこれを補つて生体を維持している。——たとえば、呼吸を早くして調節機能を働かせているが、その限度を超えると、体内の酸素は不足して脳細胞の活動はその不足に強く、すぐには機能を停止してしまう。さらに、濃度が下ると微妙な機能はつなぎつきと停止して死に近づく。

		暴露経過時間(分)				
		1	2	4	10	20
O. %		○	○	○	○	○
10.0		○	○	○	○	○
9.0		○	○	○	○	○
7.5		○	○	○	○	○
7.0		○	○	○	○	○
6.6		○	○	○	○	○
6.1		○	○	○	○	○
5.8		○	○	○	○	○
5.4		○	○	○	○	○
5.1		○	○	○	○	○
4.5		○	○	○	○	○

低酸素に対する小鳥の反応

酸素濃度(%)	症 状
16 ~ 12	脈搏、呼吸数の増加。精神集中に努力がいるが細い筋肉作業がうまくゆかない。頭痛。
14 ~ 9	判断力がふる。発揚状態。不安定な精神状態。刺傷などを感じない。酩酊状態。当時の記憶なし。体温上昇。チアナーゼ。
10 ~ 6	意識不明。中枢神経障害。けいれん。チアナーゼ。
10 ~ 6 の持続またはそれ以下	昏睡→呼吸緩徐→呼吸停止→6~8分後心臓停止。

うばってしまうこととなる。

- ③汚水のたまりやすい場所の酸欠
——汚水中のバクテリアの分解作用で好気的に酸素が消費される。
④メタンガス湧出による酸素稀釈。

⑤坑内で内燃機関の酸素消費。

⑥岩石からの大量の炭酸ガスの発生の消費——凝灰岩は硫化鉄を含有しているので、これの酸化による酸欠。

炭坑などで小鳥を使用して、坑内の酸素濃度の測定に利用していると聞くが、あまり科学的とはいえない。やはり、はじめホースマスクを携行して測定器によらなければならぬ。

酸欠が予想される場所での工事では換気装置が必要とされる。一人当たり一分間十立方尺以上の新鮮空気の送気が必要で、作業員がたとえ四名以下のときでも一分間当たり五〇立方尺以上の送気量を確保すべきである。たとえ、一人のときでも換気を中断してはならない。

酸欠事故が発生したら、直ちに救出——救出員は保護具を絶対に忘れてはならない——最初の二分間以内に呼吸を再開させねばならない。呼吸停止後六~八分で心臓は停止し、十分以上経てば蘇生のチャンスは失われる。

①庄気工法に関連した基礎坑内の酸欠——庄気工法で、砂または砂礫層のような粒子の荒いところでは、還元性の鉄、第一鉄化合物が大量に存在するので、送られた空

気中の酸素と直ちに結合して酸欠となる。

②地下水の湧き出す地下空間の酸欠——地下水は岩石や土壤と接する時間が長いため還元性が強い。

この地下水に大気が接すると酸化還元電位値が大きくなり、酸化状態に急変し還元状態のときに溶けた第一鉄イオンを酸化してしまった。したがって、空中の酸素を

FELT SAND CAKE

●フェルトサンドケーキ

¥ 350・600



北欧の銘菓



ユーハイム・コンフェクト

45

■本社・工場 神戸市葺合区熊内町1 (市立美術館東隣) TEL221-1164

■三宮センター店 神戸三宮センター街(洋菓子・喫茶・レストラン) TEL331-2421

■さんちか店 神戸三宮地下街スイーツタウン TEL391-3558



ハンドクラフトの
味わいが神戸家具の
風格を創ります。



応接4点セット
<桜材、布地英國製
ボリュレタン仕上げ>

インテリアの 不二屋

ショールーム 神戸市生田区三宮町3丁目5番地
<トア・ロード> 神戸 (078) 391-0535 (代)

葺合工場 神戸市葺合区旭通1丁目10番地

小束山工場 神戸市垂水区多聞町小束山975/1

まいしょっぷ

冬の元町

夜のとばりは早い

集い、又散り行く人々の

靴音が、とり残され

沈んでゆく

歴史の重みと

点灯されたショーウィンドーの鮮かさ

静かな変革の波が……。

元町時計店 神戸

入船K.K.設計施工
担当・清水茂



ムジンテリナ リンコ

店舗一企画・設計・施工のオールマイティ
入船株式会社

神戸市灘区友田町5-2-2 ☎(078)851-3191



●くらしのプラン(4) ガスセントラルヒーティングの 方法と費用

協和ガス住宅設備機器㈱

ヒーティングエンジニア

一級ガス設計士 伊藤 茂

ガスによるセントラル、ヒーティングについて、どんな方法があり、設備にかかる費用がどのぐらいかなどを話してみましょう。

給湯暖房器について大別しますと、温風式と温水式とがあります。温風式は、冷暖兼用型と給湯暖房のみのものがあり、温水式は、瞬間式と貯湯分離式があります。(暖房専用器は他に多数あり)

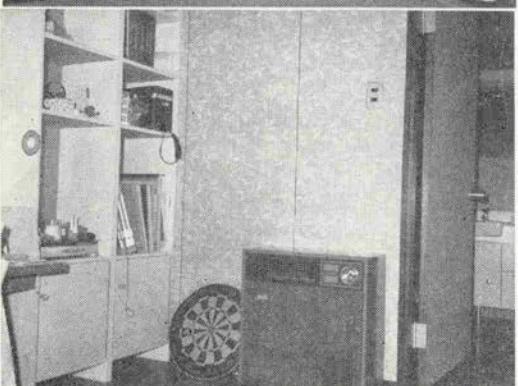
すべての機器に共通の特長は、コンパクトで耐久性が強く、静かで安定した能力を發揮し、安全で完全に衛生的なことです

温風式は、アメリカで広く使用されている方法ですが、放熱器に面積を取られない上、設備に要する費用が温水式に比べ少くてすむといわれています。3室房4カ所給湯という同じ条件を設定し、計算して見ますと、温風式で42万円強、温水瞬間式で45万円強(どちらも機器、工事、経費を含む)という結果があります。

他面、温風式は、建物の構造や、部屋の使用目的等が特殊な場合などで、かえって複雑になることがあります。

温水式は、ヨーロッパで多く使用され、温風式の様な意味での制約はまず無いといえ、必要により“無音”に近い温房も可能です。瞬間式は壁掛式で場所をとりませんし、点火すると瞬間に湯が流れます。一方貯湯分離式は、部屋数の多い家庭に向いています。設備費は、6室暖房4カ所給湯で110万円という実例があります。なお、この機器の優秀性を取り入れた、最も小型で美しい外装の2、3部屋の暖房に適した特に経済的な給湯暖房器もあります。

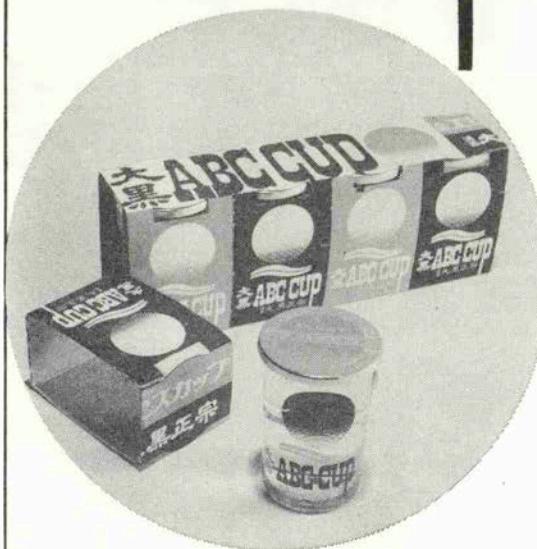
●セントラルヒーティングのご相談は、神戸市東灘区住吉東町4ノ7ノ16 協和ガス住宅設備機器㈱ 電 (078) 851-9321 大阪市北区梅田町46大阪営業所 電 (06) 345-8560



上はセントラルヒーティングを施した森邸。
中は和室のC.H. 下は子供部屋のC.H.

大黒 ABC CUP

エビスカップで
気軽に行こう！

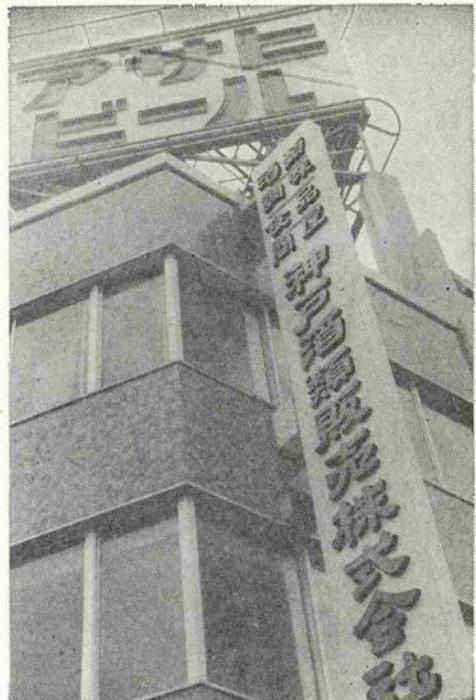


新発売
灘の生一本

清酒 大黒正宗

安福又四郎商店醸

● お酒の殿堂



アサヒビール特約代理店

酒類調味食品問屋

◎ 神戸酒類販売株式会社

本店・生田区中山手通1丁目76

T E L (078) 321-0201(代表)

支店・西宮・垂水・兵庫

酒

酒

昭和 47 年度

神戸酒徒番附選考座談会

●番附審査員

石野成明

滝川博司

赤根和生

大久保文男

竹田洋太郎

伊藤 誠

三木康弘

<石野証券社長>

<兵庫トヨタ自動車専務取締役>

<美術評論家>

<毎日新聞 神戸支局長>

<神戸新聞 論説委員>

<神戸新聞 事業部々長>

<神戸新聞 学芸部次長>

酒

酒

編集部 今年も恒例の昭和四十七年度酒徒番附を決める時期が来ました。昨年の各界の酒徒の活躍をいろいろお話をいただきたいと思います。今年度はとくに、番附の若返りをねらって、五十六歳以上引退制をして、決めたいと思っています。

F 近頃は酒に乱れる人が少なくりましたが、その反面、非常な豪傑も少くなつたような気がしますね。

A あの人はこんな酒といえる人が少くなつたのはさびしいね。

D それと、取組場所の範囲が広くなつたようです。大勢でうち揃つてワーッと飲みに行くより、グループで連れ立つて、というのが多いですね。

B それだけ番附も難しくなりました。

E 神戸っ子の番附では、ただ飲むというだけでなく、会社の業績あるいは個人の仕事の業績、そして酒量・酒品を考慮して決めていきましょう。

★
『経済人』
すらり若返る三役陣

A 五十五歳以下と、経済人の場合、ガラリと変りますね。

C 大会社の部長・課長クラスにも豪傑がいると思いますが……?

F 社用のこともあるし、範囲も広くなりすぎるので、今回は一応除外しましょう。

E 前年度横綱は神戸製鋼の外島健吉でしたが、五十五歳以下になると、非常に難しい。

B ダイエーの中内功はどうかなこの頃やや大阪が多いようだが。

A しかし横綱は全国的企業といふ面から、やはり中内功でしょう。

D 次いで上位進出は、日本香料薬品の小野一夫。経済同友会などいろいろ世話をしている。

C 非常によく飲んでいるのは、正興産業の秋田博正。

B ユニークでスマートでいいお酒ですよ。一緒に飲んでいても楽しい。張出横綱に推しますね。

F 大関クラスは多士済々。

E はり方からいつたら小野一夫若手で楽しい酒徒は樽本久。飲み

A 方のおもしろい酒徒といふと、田崎真珠の田崎俊作。一風變つて

C けど、ものすごく豪快。

A 役人だが県の商工部長の佐谷弘もなかなかの酒徒。今ちょっとだけ体こわして休んでいるが、一年を通してみたらいいと思う。

D 田崎俊作は豪傑だ。九州男児ののみつぶり。

B 仕事でも酒量でもね。不振の真珠業界で一人頑張った。関脇には充分。

C 神戸のファッショニズム界から、ニッシンの酒井利保に入つてほしいな。本当に楽しんで飲む。

A 最近は神戸と大阪半々のようだが、角南商事の角南猛夫もい。

F お座敷が多いね。でも近頃はバーにもちょいちょい顔を出していよ。

C ウシオ工業の牛尾吉朗、柏井紙業の柏井健一もつきあいはないが全然のままで。取締役に入つてもらおう。

D 小結にいくと、よく頑張っているのが光印刷の南部圭三。商店関係代表として永田良介商店の永田良一郎。

★国際色豊かな番附に

A 永田良一郎は量もいけるし、キャリアからいっても三役入確実ですな。

F のみつぶりの豪快さからいつたら、かなりの格が先述の樽本久。人気抜群で、三役をしめてもらおう。

編集部 女性はどうですか。

A 女性の経済人で五十五歳以下となると難しい。クラブの経営者では「阿似子」の小島阿似子が格量からいっても復活していい。

D 「スベール」の新谷明子は三宮の一の酒量といつてもいいけど、まだキャリアの点で浅いな。

B 「鉢」の山田昌子は花隈で開かれるサントリーノビール早飲み競争で何年間か連続優勝している。

C 女性はそういうところかな。小倉産業の小倉宗夫も強いし楽しいわゆる良い酒ですね。

F 関西貿易の竹田剛男も推します。よく土俵上に現われている。

E 昨年のJC理事長でことに飲まなければならない立場にあったのが木下健。毎晩といつてもいいくらい。非常に強い。

A 建築の佐川俊吉もかなりの酒徒。彼と一緒に東門筋を歩いたらエライことになる(笑)店のインテリアをようしてはるからね。

D 酒類販売の高田英之輔もキャラからいって、十両筆頭にランクされていい。

B 島文工業の島田文六も強い。

C 神戸金型工業の木津雅敏は飲むのも食うのも強い。

F JC関係では飲むが、自分で余り飲まないようにも思うが。

E 今年のJC理事長で、ユーハイムコンフェクトの西正興も陽気も強いね。



滝川博司氏



石野成明氏

な酒。甘口やけど（笑）

A よう会いますよ。今年一年飲んで頑張つてもらいましょう。

B 三ツ星ベルトの小田欽三もいのだが酒量が伸びない。

C そこうの山田恭一。仕事の面でも頑張つてし、愉快ない酒と思うが、仕事柄外しましよう。

E 大丸の浅田武澄も余り飲まないが、人を楽しませる。神戸でのキャリアがまだ少し浅いかな。

D 乾汽船の乾英文、神戸船渠工業の玉井新吉は花限で非常な人気です。

B しかし玉井新吉は全然飲みませんよ。土俵上によく現われていますが。

A 松岡汽船の松岡通夫もよく会うが、まだちょっと若いかな。

F 今年JC副理事長の島田光夫はブランデー党。有吉雄太郎、寺本混もよう飲むね。

C 寺本混は来年の理事長候補。今年一年修練をつんでもほしいということで、来年度に期待しよう。

D 上島珈琲本社の上島達司、量は伸びないが、日本JCの企画委員長として、頑張つてもらいたいね。

A 青年会議所すらりの感が強いが……。

B 五十五歳定年の場合、ある程度仕方ないと思います。

★女性張出横綱、初登場

（文化人）

A 文化人に入りますが、こちら

の五十五歳引退となると、書道

B の望月美佐は三役入りでしょう。

E ちょっと飲みすぎですよ（笑）

F 張出横綱に抜擢してもいい。

C すると横綱はむずかしい。

E 前年度横綱の陳舜臣この頃忙

B しくて、あんまり飲まない。

A 仕事はますます油がのってき

D ている。横綱はやはり仕事をかつてしめたいですね。

C 画家の中西勝も大関の座を守

E つていいと思う。『ウースクダラ』を唄つて頑張つてている（笑）

A 仕事の面でも黒田賞をはじめ

B 実績を果たしてきた。

C おつきあいが良くて、その人が場にいると楽しいといふ人がいるね。画家の元永定正は宝塚に住んでいても、神戸で会合やると出て来るし、楽しい酒ですよ。

B しかし前に比べるとやや少い

D 田辺聖子もつきあいが良い。

C 週刊文春連載の『女の長風呂』も好評。張出大関ぐらゐの格はある

D 神戸大学の小島輝正。チビリとマイ・ベースで楽しんでいる。キャリアからいつてもかな



三木康弘氏



伊藤 誠氏



竹田洋太郎氏



大久保文男氏



赤根和生氏

り上位にランクされていい。

田口寛治。強い。三役入りは確実。

★ユニークな新人の台頭

A 国際色が加わるね。

B インテリア・デザイナーで菅原亮という人がいる。

D 彼はいい。夜の紳士だ。

F やはりデザインの樋口治もいいが、大阪やな。

E 造形の河口龍夫、斎藤智も土俵に出没。若いが仕事を買いたい

C 女性酒徒がもつといそうだが

A 邦舞の花柳芳恵一子も強い。

E リサイタルを開くなど女一人気をはいている。

C 若いがアナウンサーの小山里子。のみながら男の子を叱咤激励しているところなどいいのでは

E やはり新人の台頭著しいね。

A 大学の先生にも豪傑がいると思うが……。

B 神戸大学のおそらく一番若い教授で法學部の木戸翁。体が大きいから酒量もスゴイ。

C 神戸では飲んでるが、大阪市大の地質学の藤田和夫も強い。甲南大学人類学教授で、米山俊直につぐという石毛直道。もの静かにしゃべりながらいくらでも飲む。

A 都市計画の水谷頼介もなかなか元気に飲んでいる。

- A 作家の黒部亨はいい酒ですね量も伸びるし、何しろ酒品が肝心だからね。
- D 静かに話しながら飲む方だが、興がのると軍歌を唄う。
- E 将棋の内藤国雄は抜群の強さ将棋といえば、昨年新人賞をとった若松政和も賑やかな酒で強いが、内藤国雄代表でいこうか。
- F やはり酒量で群を抜くのは、陶芸の市野弘之だ。
- C 洋画の松本宏もいいのだが、東京留学で残念ながら休場。
- E 洋画の鶴居玲がスペイン、評論の野口武彦がアメリカへ行って神戸にいないのはさびしい。飲む元気さといい、つきあいの広さと高い、あの二人がいたら酒席がバツと華やかになる。
- D 洋画の河野通紀は土俵上で余り見かけないようになつたが。
- B しかし鶴居玲は年頭に一ヶ月ほど帰国して、その夜から飲みまわっているというから頗もしい。
- F 最近、家で飲むことが多いようだ。
- C 論風発、親分肌の貝原六一（洋画）も若い人たちを連れて飲み歩いている。
- A だが、この頃以前と比べると少くなっているよ。
- D 洋上大学へ行つて飲みとおしたという豪傑もいる。神戸大学の

- D 前頭陣かなり新しい顔ぶれがある。そりそりだな。
- F 元町画廊の佐藤廉は文化人に入るのだろうか、経済人だろうか。
- E 体質的にいって文化人でいいのでは。
- A 酒量は伸びないが、みなを連れて、よく土俵に現われて頑張っている。仕事もいい。
- C 俳句の赤尾兜子もかなり上位やな。
- B 来るとかなり飲んでるが、神戸で飲む回数は最近減つている。
- F 漫画の高橋孟。ほとんど毎日現われているが、土俵が限られて楽しくないとね。
- A ハモンドの小曾根実はなかなかスマート。やはり一緒に飲んでて楽しいとね。
- C 詩人の伊勢田史郎、道化座の阿木五郎二人共いい酒だ。前頭に入つていい。
- F 丸本耕（造形）は量は飲まないが、サービス精神が旺盛。喜ばれる酒や。
- D 作家の島京子は飲んでると迫力がある。低い声でボソボソしゃべるだけなのに何故か目立つ。
- E 洋画の鄭相和もよく飲んでい

D 福田武（インテリア・デザイナー）もよう出て来ている。彼はよく飲むし、成長株ですよ。

F しかし初場所だからちょっとととまつてもらおう。

B 神戸二紀会の坂本邦男も、飲み出したら夜中の二時三時まで平気、若い人と肩を組んで飲み歩いている。

C 放送作家の織田正吉は、土俵がむしろ大阪に移った感があるね

F 彫刻の山口牧生。量は少いが静かな良い酒。人格賞やな。

A 彫刻といえば新谷透紀もこの頃飲んでいるが、年末にイタリアへ帰つて（？）イタリア人の嫁さんを連れて来るそうだ。

D 入つていいね。

F 洋画の石阪春生もいいが、一定のところで静かに飲むぐらい。

E デザインの向井修二はこの頃大阪が多いかな。

B でもコンスタンントに遊んでいるよ。

C クラリネットの朝比奈千足がドイツから帰つて来て、活躍がみられるが。

A よく神戸の土俵にも現れて飲んでるよ。親子交替やな。

E 話題といえば、垂水に引越してきた筒井康隆はどうかな。

B まだ神戸東京半々の様子。土俵上には現われていない。

C 今年に期待する期待賞ですな

D 東京在住だが洋画の横塚繁も入っていいんじゃないいか。神戸で個展もしてるし、神戸へ来て遊んでの方が多いんだからね。

F しかし東京在住はしんどい。

B 神戸二紀会の坂本邦男も、飲み出したら夜中の二時三時まで平気、若い人と肩を組んで飲み歩いている。

C 放送作家の織田正吉は、土俵がむしろ大阪に移った感があるね

F 彫刻の山口牧生。量は少いが静かな良い酒。人格賞やな。

A 彫刻といえば新谷透紀もこの頃飲んでいるが、年末にイタリアへ帰つて（？）イタリア人の嫁さんを連れて来るそうだ。

D 入つていいね。

F 洋画の石阪春生もいいが、一定のところで静かに飲むぐらい。

E デザインの向井修二はこの頃大阪が多いかな。

B でもコンスタンートに遊んでいるよ。

C クラリネットの朝比奈千足がドイツから帰つて来て、活躍がみられるが。

A よく神戸の土俵にも現れて飲んでるよ。親子交替やな。

E 話題といえば、垂水に引越してきた筒井康隆はどうかな。

B まだ神戸東京半々の様子。土俵上には現われていない。

C 今年に期待する期待賞ですな

だし、仕事もいい。千里山から熱心に土俵に通つてゐる。

D しかし皆をもう一つ納得させるヒットがほしいところだ。

A 小曾根実は昨年、リサイタルも開いたし、神戸まつりの歌も作曲、いい仕事をしたと思う。

F 異議なしといふところだね。

B すると技能賞は、黒部亨はどうだろう。小説サンデー毎日で受賞したし、この年頭に単行本二冊を出した。

C 酒品、仕事共に買っていい。敢闇賞で、年齢のわりに頑張っている人はいないですか。

A むずかしいところですね。むしろ佐藤廉が敢闇賞ですよ。

B 夜の育成かな（笑）

D 今年度の三賞は異色の顔ぶれが揃いましたね。

E 文化人を育成しているところがなかなか。

★新年号「神戸っ子フレッシュ・クリエイター」の記事におきまして・造形の部、斎藤智氏、神戸大学美術科とありますところの神戸大学教育学部美術科の助手の意です。	
・版画の藤原尚憲氏、「美術部門」絵画の部に訂正します。	・詩の部、片桐ユズル氏だけに職責がのり、不統一であったこと。片桐氏は特定の同人誌に属しておられません。
など訂正させていたくと共に不備な点が多くありましたこと、お詫びいたします。	（編集部）

わたししも菊正宗

「もう一杯」が重なる
ハッピーなひととき



「オツ、キクマサだね…」

「寒かつたでしょ」

「うまい！さすが…」

本格派のための生一本

キクマサなら心がかよいます。

2人だけのハッピーな時間がおとすれます。

品質ひとつじ

菊正宗

菊正宗酒造株式会社



神戸酒徒番附

・56才以上引退制による

こんにちは赤ちゃん



東灘区本庄町／宇佐美貴太君

完全看護★冷暖房完備★病院前駐車可能

芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大浜町1番18号
国道芦屋川電停東50米(明治生命南)
☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

佐本歯科

Tel (078) 331-6302~3

小児歯科

一般歯科



センター街東角・サンチカ入口
住友銀行ビル6階

〒650 生田区加納町5丁目39
tel 331-6302・6303

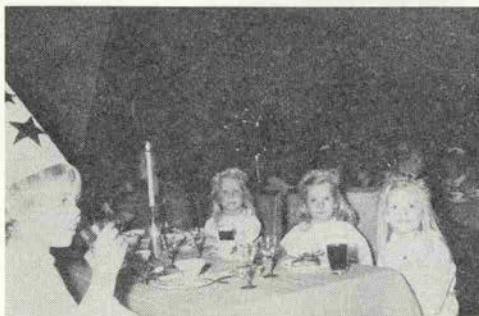
神戸の集いから

★赤根和生さんを囲む忘年会

このほど、わが国でははじめての、本格的なモンドリアン論『ピート・モードリアン——その人と芸術』(美術出版社刊)を上梓した美術評論家の赤根和生さんの労をねぎらつて美術作家間の忘年会が、十二月十五日貿易センタービルのバーグで開かれた。京都から堀内正和・木村重信、また吉原治郎、元永定正、津高和一、中西勝、丸本耕、吉原英雄など約二〇〇人の京阪神間の美術家・文化人が参加、神戸夜景をサカナに飲み、果はヌードショーも飛びだす神戸らしい愉快な集いだった。



最後はついに赤根さんの頭上げとなつた。



天使のようなスウェーデンの子供たち

★日本スウェーデン交歓ルシャ祭

スウェーデンでは殉教の美少女ルシャの伝説と光を意味するルシヤが結びついたルシャ祭が、約一五〇年前から、十二月十三日に行われているが、神戸外人クラブでも、日本・スウェーデン協会の主催で、美しく楽しく開かれた。在日スウェーデン人少女からルシャが選ばれ、子供たちは白い聖衣に銀色の輪を頭に飾る。共に、コーヒーやルシャ・カーネル・コル・香料入りの熱い酒「グロッグ」を楽しみ、ゲームに、時を忘れる夕べであった。

●キャンティ・コーナー



マイベースで
洋酒の味を

杉山和夫

(関西電力KK神戸支店次長)

「大阪から神戸へ転勤して一年半になるのですが、キャンティへ来て神戸らしい店に出逢つたと喜んでいます。いろいろ洋酒の味を憶えたのもこことだし、また神さんの服装といい、マナーといい、サービスぶりなどサスガですね。」



新春には去年は剣菱、今年は白雪と樽酒を出してくれまして大変気になりました。それにオックステーブルのシチュエーが好きでしてね」

洋酒の店キヤンティ

Chianti*

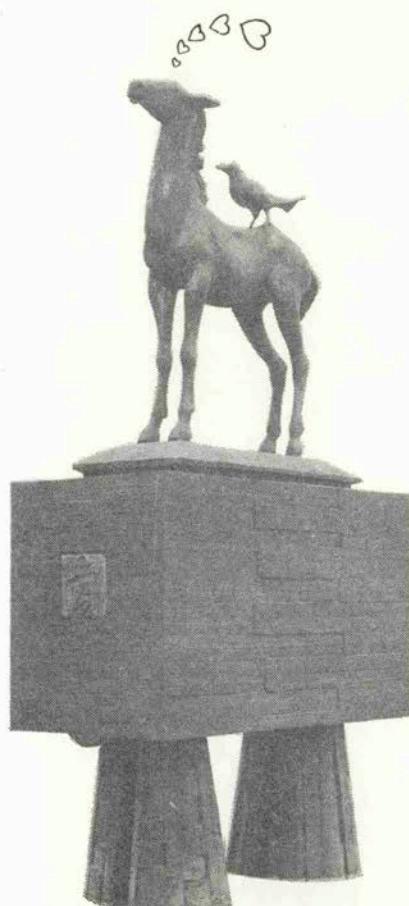
神戸・生田区北長狭通二二三
TEL ▲91V 3060

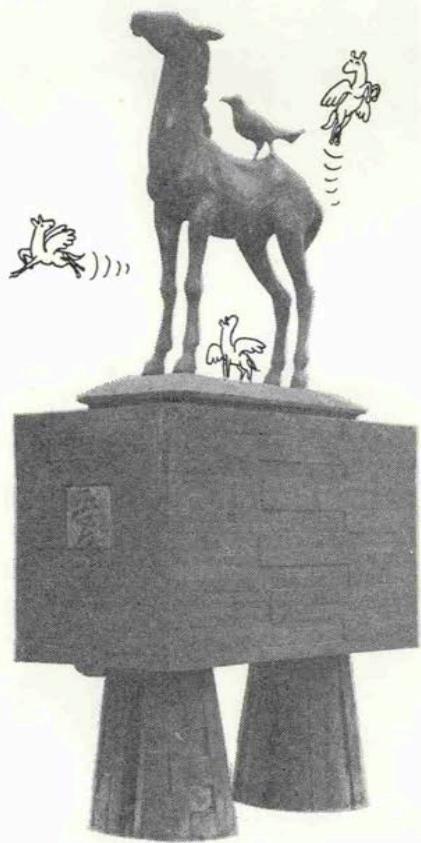
コラージュコミックス

2

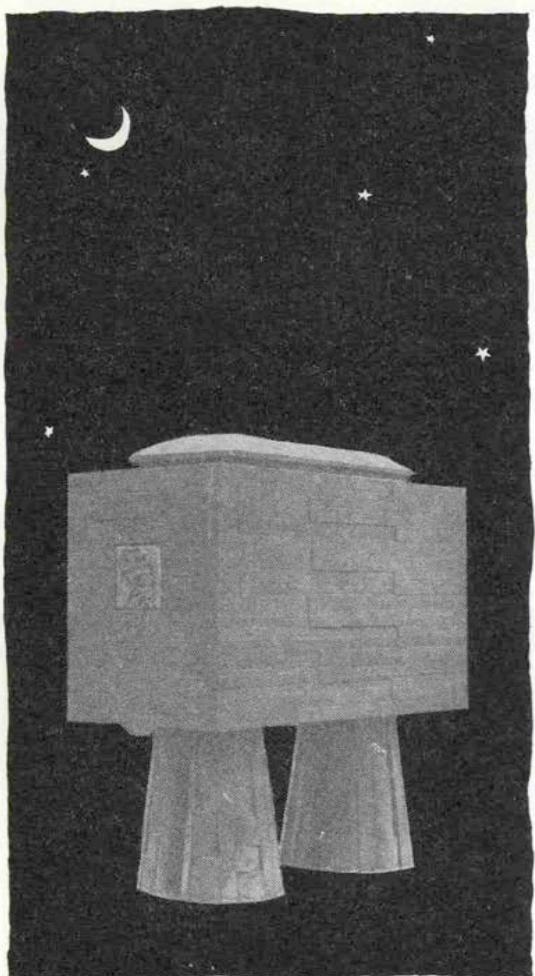
噴水広場の
「愛」の像

岡田 淳





④



③

神戸遊戯誌 101

★京大と神戸ラグビーチームの活躍

大正末期はラグビーの興隆期だったが、昭和（戦前）はその全盛期である。社会人、大学、高等学校、専門学校、中学校諸チームの数もふえてくるし、技術も向上してきた。一方海外遠征もめだつてきた。日本チーム初の海外遠征は慶應の上海（シャンハイ）と香港行き（大正一四年）だったが、昭和二年には早大が夏休みを利用してオーストラリアに遠征してシドニー大学らと五戦して帰国、同年九月には同志社大が満州に行き満鉄クラブと戦い、十二月下旬には明大が上海へ行き英人及び英國駐在軍らと試合をして翌年帰国した。いずれも海外外人チームとて試合成績は負けに終わったが、国際的な経験を身につけたことは強みだった。

だが同年のラグビー界の最大のトピックはなんといっても京大チームの台頭と強剛ぶりである。大正一四年に

オープ・プレイの特技を学んで帰国した香山蕃氏（京一中—三高—東大、後年日本ラグビーフットボール協会長）をさっそくコーチに招いた京大は破竹の勢で、西部ラグビーフットボール協会に属する諸チームを一つのトライすら許さず関西で優勝した。さらに年末から暮れにかけての大学東西対抗試合には関東勢を連破して全国の霸権をにぎったばかりか、十二月二八日の対東大定期戦も二三対〇で勝利をおさめた。翌年も依然強く、まず元旦早々不敗を誇っていた慶應を破り、つづいて関西で連勝後東西対抗では東大を八対三で負かして再び全国で君臨、昭和四年も関東の霸者慶應をくだして三年つづけて全国で優勝という大偉業をなしとげた。神戸出身の奥村竹之助、馬場次郎、武夫兄弟、川本時雄、宇野庄治、合田夷諸氏が中心となつて活躍していた事を特筆したい。

だがその後京大の黄金時代が去ると共に関東の大学、とくに明大、早大両校の強剛時代がしばらくつづき、関西勢は京大を含めて各校とも落ちぶれた存在となつた



▲ 英国皇太子プリンス・オブ・ウエールズが大正11年来日、三高とKR & ACの熱戦をごらんになった（於三高グラウンド）

▼ 一中と二中のラグビー定期対抗試合（東遊園地）
右端のレフリーはジョーイ・アブラハムさん。



ラグビー②

青木 重雄

が、昭和八、九年頃になつて同志社大が強くなり、その後十七年まで関東チームに善戦して関西勢のため万丈の氣を吐いた。特に昭和八年の活躍はめざましく、この年の覇者早大と八対八で引きわけ、第二位の明大とも一三対一三で引き分けたが、関東の第三位慶應に破れたため惜しくも覇権を握ることができなかつたが、それまで沈滯の関西ラグビー界に大きな刺戟と鼓舞を与えたものだまた、九、十年頃からは同志社につづいて関学が拾頭したため関西人も活気を取り戻した。同校は早大馬場コートの指導を受けて着々実力を養い、久しく第三勢力なき関西ラグビー界に三者つい立の觀をなした。ちなみに同校は終戦後も一躍関西の覇者となり、関東勢に対して互角の対戦をなすようになつたものだ。

この間わが神戸では、前回も書いたが東遊園地グラントでK.R.A.C.と慶應はじめ、同志社、三高、関学チームなどとの試合が盛んに行なわれた（主に土曜日）のをはじめ、神戸へ入港の外国船チームと日本人チームの試合がしばしば行なわれるようになつたが、日本人チームの実力は年々向上して白熱戦が展開された。なかでも昭和四年に慶應の元名キャプテン脇肇氏が東京から転勤して来神したのを機会に当時の神戸出身及び在住の各大学の名選手に呼びかけて純然たるアマチュアクラブとして結成された神戸ラグビークラブの活躍はなかなか花やかなものだった。

三度のメシよりもラグビーが好きという連中が須磨板宿の山下グラウンドで、毎週神戸一中、二中、県商等を相手に練習試合をはじめ、やがて同志社大、京大、三高、大阪クラブなどの関西の強豪相手にも肩を並べるトップチームとなつた。また、都市対抗試合ではコウベ肉のシンボルである「スキヤキの牛の顔マーク」を胸につけて大阪（秀吉にちなんで猿のマーク）名古屋（ニワトリ）京都（祇園だんご）と対戦し、大阪の花園ラグビー場で十回に八回は優勝するという輝かしい活躍ぶりで、学生達と異つた円熟した高度のプレーを見せていた。

他方K.R.A.C.の方も試合後はハデに振る舞つた。當時東遊園地の南東隅にシャレたクラブハウスがあつて外人の専用社交場の感じがあつたが、試合が終わるとラグビーハーフタイムクリケット（K.C.C.＝神戸クリケットクラブ）やサッカーハーフタイムの外人連はここへ集まつて飲食し、あとでダンスに興じた。

大正十二年春イギリスのプリンス・オブ・ウェールズが来日され、京都でK.R.A.C.と三高との試合が行なわれ、山高帽姿の殿下の御来観を仰いたが、この時もここで花やかなダンスパーティが催された。なお、殿下はこの時ハーフタイムで帰られたが、この時まではK.R.A.C.が勝っていたのに、後半逆転して三高の勝ちとなつた。また、この時のレフエリーをつとめたのはジョーイ・アブラハムさんだった。

この頃、つまり大正末から昭和五、六年へかけて東遊園地のグラウンドのキーパーをしていた山本某という背の高い日本人のおじさんがいたが、外人選手たちは「ちいさい」と呼んでいた。当時外人連から見れば小さく見えたのだろうがテニスでも何んでも外人の相手を出来た名物男だった。神戸一中と二中の定期戦が開始されたのも昭和六、七年からである。

△△△△△

それにもましてお盛んだったのが夜の友好プレイ。コツテ牛マークにちなんでスキヤキの「三輪」でビールタタミを全部あげて積み重ねたり、庭の植木を引っこ抜いたり、花園のダンスホールでの武勇伝……。ピーッと笛の相団でサーツと消える……進退はすこぶる早い。花隈青楼、「サンノミヤバー」、「シルバーダラ」等で三十人ぐらいのメンバーが試合同様大暴れだったが、だれも文句をいふものがないといふ全く古き良き時代だつた。